

東京教区パワーシフト・キャンペーン ニュースレター No.5

教区事務所パワーシフト完了！

COP26以降に要注目！

東京教区パワーシフト・キャンペーンを通して感じることは、政府の方針や世界の動きに、かなり敏感に電力市場も、電力会社も影響を受けることです。ことに再生可能エネルギー比率を高めようとしている小さな電力会社や市民活動にとっては、このような不安定な状況は存続そのものにも影響するほどです。わたしたち一人ひとりが世界の動き、政府の方針やエネルギー政策に関心を寄せ続けることが、まずは大切です。ことに、COP26（国連気候変動枠組条約第26回締約国会議）以降、世界各国、日本政府は方向性を示すこととなります。皆で注視し、自分の生活を支えている電力のことを、自らの問題として捉えていきたいものです。

ニュースレターアーカイブ をぜひご覧ください！

礼拝休止期間中に出された、本キャンペーンのニュースレターをご覧いただけていない方もおられることと思います。過去に発行されたものは、東京教区HPトップページの右側の「東京教区パワーシフト・キャンペーン」のバナーから入っていただくことができず。QRコードからもどうぞ！



教区事務所が選んだ電力会社は 「グリーンピープルズパワー社」

前号では、教区事務所における新電力会社選びにあたっての前提5つを挙げ、候補会社を二社（A社、B社）に絞ったことのお知らせをしました。その後、それぞれの会社に問い合わせするなどして情報を集め、10月の職員会議で検討し電力会社を決めました。結果、教区事務所は、電気購入を通して「グリーンピープルズパワー社（以下、GPP）」を応援し、再エネ利用にかかわっていくことにしました。

■決定にあたって、教区事務所は下記のように考えました

1. 問い合わせに対する応答や説明がより明確な会社。
2. CO2排出問題の解決を、あくまでも再生エネルギーの利用を中心に考えていて、再エネ100%に向けた理念をより強く感じられる会社。
3. 地球温暖化による被創造物への深刻な影響に対して、クリスチャンとして「命」のために自覚的に選択し、身近なことから行動していこうとするパワーシフト・キャンペーンの趣旨を重く捉えること。
4. 大きな変革ではなく、一人ひとりと出会う中で命を祝福し、回復されたイエスさまに習い、たとえば、大企業や政府による大きなパワーではなく、小さくとも、一人ひとりが主体的に選択し、行動している応援し、企業を応援すること。

■実は、悩みました

電気料金については安いに越したことはないが、現状の東京電力よりA社は安くなり、B社はA社に比べるとそこまで安くない可能性があることがわかり迷うところでした。しかし、より教会的で、理念に共感できるのはB社であると判断し、節電や物質的な節約によって、経費総額を抑えていくことに努めよう！ということでB社=GPPに決定しました。ただし、教区事務所は一旦会社を決定したらそれで終わるのではなく、今回選んだ会社が地域や環境との調和をはかりながら成長していく様子を見守り学びながら、必要あれば会社の選び直しを行うことを確認しました。併せて、今回を機会にCo2削減策が原発利用推進に偏向することのないよう国の制度についても関心を持ち続けていくことを大切にしていきます。

◇参考：「グリーンピープルズパワー社」◇

1. 特徴：原発や化石燃料に頼らずに、地域に興す小さな発電所の電気を買ひ、また地域市民や環境と調和しながら自社発電にも着手している市民が出資する小規模な会社
2. 契約期間など解約にあたっての縛り条項はありません。
3. 契約および実際の切替えは、2021年11月15日より

※GPPに皆さんの決定を誘導する意図はありません。あくまで、各教会やご自宅等々での選択の際のご参考までに提示するものです。

